

発眼卵およびふ化仔魚で放流したホンモロコの分布と成長

臼杵崇広・三枝 仁・上垣雅史・吉岡 剛

◆背景・目的.....

ホンモロコの経日的な分布と成長を把握するために、ALC標識を施したホンモロコの発眼卵およびふ化仔魚を主要な産卵場に放流し、採捕調査を行った。

◆成果の内容・特徴

- ・西浅井町の主要産卵場のヤナギ根付近へ平成19年5月21日から25日にホンモロコのふ化仔魚を約55万尾、5月18日、19日にふ化仔魚と同一ロットの発眼卵(ふ化仔魚約55万尾相当)を放流した(図1)。なお、両者には相互識別が可能な ALC標識を施し、発眼卵は遮光シートに付着した状態で5mm目のイセスの中に放流した。その後5月29日から7月25日まで経日的に湾内で小型曳網により仔稚魚を採捕し、標識を確認した。
- ・調査期間中にホンモロコは175尾採捕され、その内発眼卵放流魚は36尾、ふ化仔魚放流魚は10尾、その他標識魚は7尾であり、残りの122尾は天然魚と考えられた。
- ・調査水域を水域の特徴によりヤナギ・ヨシ帯、移行帯、沖側水域の3水域に分けて、経日的な採捕状況、体長組成を見ると、発眼卵放流魚はヤナギ・ヨシ帯では5月29日から、移行帯では5月31日から採捕され(図2)、調査期間当初のヤナギ・ヨシ帯では体長5.76～6.06mmの小型の個体が採捕された。一方、沖側水域では発眼卵放流魚は6月7日から採捕され、採捕個体の体長は7.95mm以上であった(図3)。
- ・データ数としては十分ではないが、天然水域における発眼卵やふ化仔魚から稚魚までの成長の一端を把握できた(図4)。

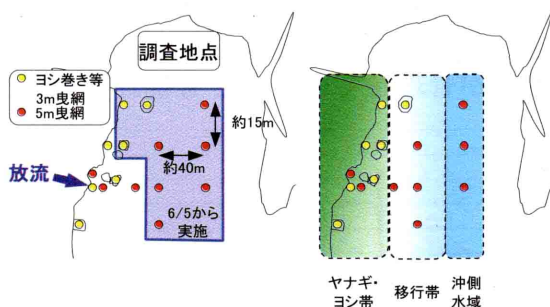


図1. 調査地点(左図)と水域の特徴による区分け(右図)。
図は概略図。

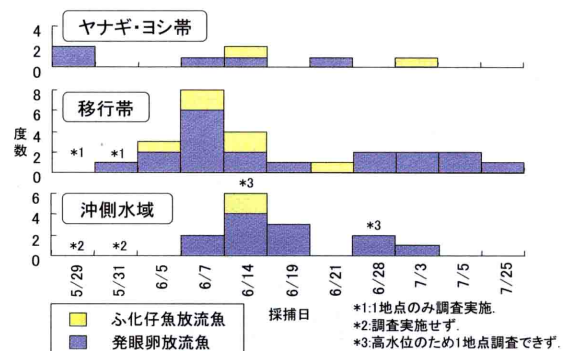


図2. 各水域で採捕された発眼卵放流魚および
ふ化仔魚放流魚の採捕尾数の推移。

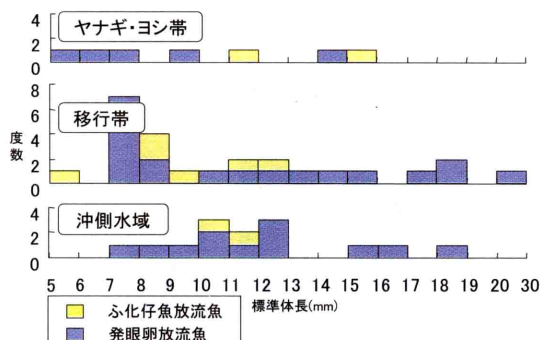


図3. 各水域で採捕された発眼卵放流魚および
ふ化仔魚放流魚の体長組成。

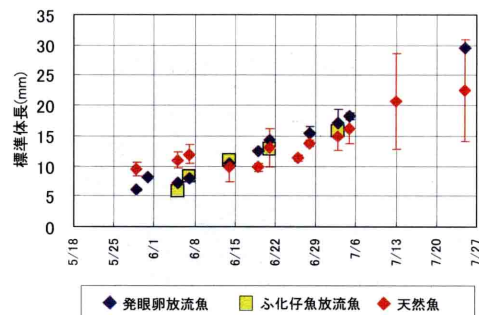


図4. 小型曳網で採捕したホンモロコの平均体長
の推移。垂直線は標準偏差を示す。